

(2427 JASDAQ) 株式会社アウトソーシング
2010年12月期 第3四半期決算 フォローアップ取材サマリ

2010年10月28日に発表された株式会社アウトソーシング(以下、OSI 又は当社)の2010年12月期 第3四半期(7-9月期、3Q)決算につき、その概要を代表取締役社長 丸岡 陽太氏に取材させていただきましたので、以下にご案内いたします。

【2010年12月期 第3四半期 連結決算概要】

当3Qは、【表1】の通り、連結売上高で前年同期比 3,013百万円、営業利益で同 327百万円の増額となった。2月10日付期初予想に対しては、売上高で725百万円の増額、営業利益で117百万円の減額となり、2Q同様、売上高は上振れ、営業利益は未達という結果となった。なお、当3Q累計期間において、販管費率が前年同期比、16.9%から17.4%に上昇しているが、その主な理由として、主力の生産アウトソーシング事業(生産OS)において、輸送機器・エレクトロニクス業界関連を中心に、想定以上に受注が拡大し、外勤社員増員のための募集費等の発生が挙げられる。

【表1】 2010年12月期 第3四半期 連結業績サマリ

(百万円)	FY12/09		FY12/10		
	3Q (7-9月)	構成比	3Q (7-9月)	構成比	変化率
売上高	4,397	100.0%	7,410	100.0%	68.5%
売上総利益	877	19.9%	1,615	21.8%	84.2%
販管費	826	18.8%	1,237	16.7%	49.8%
営業利益	51	1.2%	378	5.1%	641.2%
経常利益	90	2.0%	444	6.0%	393.3%
純利益	43	1.0%	214	2.9%	397.7%

【表2】 2010年12月期 第3四半期累計 連結業績サマリ

(百万円)	FY12/09 3Q累計		FY12/10 3Q累計			FY12/10通期		
	実績	構成比	実績	構成比	変化率	予想	前年同期比 増減額	増減率
売上高	12,131	100.0%	20,249	100.0%	66.9%	28,500	10,536	58.7%
売上総利益	2,053	16.9%	4,160	20.5%	102.6%	-	-	-
販管費	2,376	19.6%	3,525	17.4%	48.4%	-	-	-
営業利益	△ 323	-2.7%	635	3.1%	n.a.	1,600	1,750	-
経常利益	△ 215	-1.8%	823	4.1%	n.a.	1,800	1,778	-
純利益	△ 358	-3.0%	376	1.9%	n.a.	1,050	1,265	-

※ 各表は(株)アウトソーシングによる開示データ・説明資料をもとに、(株)トリアスにて作成。

当四半期のセグメント別業績は、【表3】にある通り、主力事業のいずれもが前年同期比回復したが、中でも特に管理業務アウトソーシング事業(管理業務OS)の伸びが大きかった。2月10日付期初予想対比では、生産OSの売上高、営業利益それぞれ、807百万円、59百万円の上振れだったが、管理業務OSについては、2Qに引き続き、売上高・営業利益ともども、71百万円、167百万円の未達となった。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【表3】2010年12月期 第3四半期 連結セグメント別業績

(百万円)	FY12/09		FY12/10		前年同期比	
	3Q (7-9月)	構成比	3Q (7-9月)	構成比	増減額	増減率
売上高	4,397	100.0%	7,410	100.0%	3,013	68.5%
生産アウトソーシング事業	4,174	94.9%	6,984	94.3%	2,810	67.3%
管理業務アウトソーシング事業	54	1.2%	276	3.7%	222	411.1%
介護事業	104	2.4%	125	1.7%	21	20.2%
その他の事業	64	1.5%	23	0.3%	△ 41	-64.1%
営業利益	51	1.2%	378	5.1%	327	641.2%
生産アウトソーシング事業	11	0.3%	293	4.0%	282	2563.6%
管理業務アウトソーシング事業	16	0.4%	94	1.3%	78	487.5%
介護事業	19	0.4%	27	0.4%	8	42.1%
その他の事業	8	0.2%	△ 9	-0.1%	△ 17	-
消去又は全社	△ 4	-0.1%	△ 28	-0.4%	△ 24	-

【表4】2010年12月期 第3四半期累計 連結セグメント別業績

(百万円)	FY12/09		FY12/10		前年同期比	
	3Q 累計	構成比	3Q 累計	構成比	増減額	増減率
売上高	12,131	100.0%	20,249	100.0%	8,118	66.9%
生産アウトソーシング事業	11,638	95.9%	19,249	95.1%	7,611	65.4%
管理業務アウトソーシング事業	98	0.8%	518	2.6%	420	428.6%
介護事業	240	2.0%	352	1.7%	112	46.7%
その他の事業	154	1.3%	128	0.6%	△ 26	-16.9%
営業利益	△ 323	-2.7%	635	3.1%	958	-
生産アウトソーシング事業	△ 378	-3.1%	501	2.5%	879	-
管理業務アウトソーシング事業	31	0.3%	140	0.7%	109	351.6%
介護事業	48	0.4%	78	0.4%	30	62.5%
その他の事業	15	0.1%	△ 3	0.0%	△ 18	-
消去又は全社	△ 40	-0.3%	△ 80	-0.4%	△ 40	-

生産OSの上振れ要因は前述の通りだが、内訳としては、輸送用機器の回復は見通し以下だった。具体的には、量産現場での外勤社員の増員やエンジンのベンチテストの稼働が想定ほど伸びなかった。一方で、電子部品関連の外勤社員の増員は想定以上となったが、輸送用機器関連の影響を補えず、【表 5】にある通り、予想比 126 人の未達となった。

また管理OSにおいても、2Q に自動車のボディメーカー向けに採用代行が計画以上に推移したものの、これらが管理委託代行業務につながらなかった。3Q において、この傾向がさらに顕著になった結果、採用代行人数は予想を上回り、年初の出遅れを取り返したが、期末管理人員数は予想を下回った。ただし、生産OSの動向に同じく、電子部品メーカー向けには、管理委託代行業務が想定以上に伸びた。なお、今年に入り、月次の採用単価(=募集単価)が徐々に上昇してきているが、これは、管理業務OSにおいて、一部のメーカーで高額の手数料をもらえるものの、募集が難しく採用コストも高くなる採用代行の案件が増加したためで、生産OSにおける採用単価が大きく上昇しているわけではない。

4Q 末における人員数予想は、7 月 14 日付予想に対し、生産 OS の期末外勤社員数を 300 人上方修正したが、これは 10 月 1 日付でグループ入りした(株)ニッソーサービスの技術社員約 300 人を織り込んだもの。管理業務OSでは、現状を反映し、採用代行人員数を 800 人上方修正する一方、管理業務OSの期末管理

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

人員数を 500 人下方修正した。

【表5】セグメント別人員数の推移

(人)	1Q		2Q		3Q		4Q	
	直近予想	実績	直近予想	実績	直近予想	実績	7/14予想	直近予想
生産OS								
期末外勤社員数	6,100	6,223	6,150	6,192	6,800	6,674	7,300	7,600
管理業務OS								
採用代行人数	350	90	400	459	600	1,079	1,200	2,000
期末管理人数	1,800	2,049	2,200	2,083	2,830	2,644	4,000	3,500
(ご参考) 期末月採用単価(円)		31,653		65,483		78,081	n.a.	n.a.

4Qについて、マクロ経済の影響は読みづらい。来年にかけて増産計画はあるものの、特に輸送機器関連の一部メーカーの計画に不透明感がある。また、増産が計画通りなされる場合も、顧客メーカーがどの形態で増員対応するか—派遣や請負などの生産アウトソーシングによる増員か、期間社員の直接雇用によるかによって、当社生産OSの外勤社員数と管理業務OSの採用代行人員数のバランスに影響を与える可能性がある。輸送機器関連を中心としたマクロ面でのリスクについては、新アプリケーションの立ち上がりで増産が計画されている電機・電子関連の受注や、既存生産現場での構内シェア拡大により、軽減していきたい。一方、事業ポートフォリオにおける計画との乖離リスクについてだが、期間社員の直接雇用が先行する場合、当社利益面についてはポジティブ要因になる。一方、受注形態が派遣・請負になると、初期費用が先行するため、売上高は計画通りであっても利益面の圧迫要因となるが、継続的な売上拡大につながるため、来期においてはポジティブ要因となる。

【グループ戦略の進捗】

リーマンショック以降、大きく縮小した生産アウトソーシング市場では、業界再編の流れが加速している。その過程で、既存の業界大手(未上場)と、それを追う当社のような後発大手の事業規模にあまり差がなくなってきた。現在主流となる企業群の規模が、外勤社員数 7,000-8,000 人、売上規模 300 億円程度に収束してきており、勝ち残り組が工場占有率をさらに拡大させるための競争が始まっている。

そのような環境下、生産アウトソーシング業界では、新たなビジネスモデルの開拓や差別化戦略の重要性が高まっている。例えば、従来輸送用機器業界に強かった企業の場合、期間社員の直接雇用化の流れで事業規模が市場平均以上に縮小し、それを補うため、人材紹介や採用代行を強化している。これは、当社の管理業務OSと競合する流れだが、当社の採用代行業務には、グループ会社の(株)ORJにおいて、共同出資会社である(株)リロケーション・ジャパンの持つビジネスモデル特許「リロ補償」を基礎とした事業インフラがある。社員寮などの不動産関連業務を軽減する仕組みを組み込んだビジネスモデルを通じ、単純な労務管理ではない総合的なサービス提供で差別化を図っている。

また、生産OSにおいても、業種特化したグループの組織化を通じ、川上から川下までの一括請負に向けての事業インフラ構築を推進、差別化を図っている。過去 2 年ほど、技術系を中心に多くの子会社をグループ化してきたが、今年度に入り、まずは輸送機器グループと電気・電子グループにおいて、グループ子会社を再編し、組織強化に注力している。

輸送機器グループにおいては、7 月 1 日、トヨタグループや日産グループ等に強い子会社 3 社を(株)アウト

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

ソーシングセントラルに集約。さらに 9 月 14 日には、ダイハツ工業に強い事業基盤があり、実験・評価などの川上工程に強みを持つ(株)ニッソーサービスをグループ化した。これにより、既存口座を含め、自動車業界全般に顧客層を広げることができたとともに、今後はアウトソーシングセントラルの量産現場に、ニッソーサービスによる技術開発系プロジェクトを組み込み、一括受託を目指す。

電気・電子グループでは、10 月 1 日付で、半導体・半導体製造装置関連市場をターゲットとする新子会社、OSセミテック(株)を設立した。この会社の経営陣には、半導体メーカーや半導体製造装置メーカー等にて、生産技術のノウハウを蓄積した専門家を招聘、生産現場での製造装置の保守・保全管理を含めた製造技術を通じ、生産効率を抜本的に改善するための提案力を構築、差別化を図っていく。また、このような差別化戦略が確立した時点で、同社についても、電気・電子グループに移管し、経営の効率化を進める考えだ。

さらに、川上から川下への一括請負受託の体制構築に重要な技術者であるが、ニッソーサービスの約 300 人が加わり、現在グループ全体で技術者 1,500 人の体制になった。今後は、この事業インフラを有効活用し、生産動向は横ばいでも、当社の市場シェアを拡大することにより、来 2011 年 12 月期後半には、外勤社員数 10,000 人を目指したい。これは、今期末予想の 7,600 人をベースに、輸送機器グループ、電気・電子機器グループの市場シェアアップによる 1,500 人の増員、今期末 3,500 人予想の業務管理人員の約 1,000 人の生産現場を請負化することを前提としている。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【ご参考】(2427) 株式会社アウトソーシング

連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2010.9月	15,544,300
うち自己株式数(株)	2010.9月	1,139,500
時価総額(百万円)	2010.12.08	4,943
1株当純資産(円)	2010.9月	206
ROE(%)	2009.12月	-8.0
ROA(%)	2009.12月	-2.8
PER(倍)	2010.12月予	4.4
PCFR(倍)	2009.12月	-1,235.8
PBR(倍)	2010.9月	1.5
株価(円)	2010.12.08	318
単元株数(株)	2010.9月	100
日々平均出来高(株)	2010.12.08	44,283

連結主要データ		
総資産(百万円)	2010.9月	11,784
自己資本(百万円)	2010.9月	2,972
有利子負債(百万円)	2010.9月	3,687
自己資本比率(%)	2010.9月	25.2
有利子負債比率(%)	2010.9月	124.1
フリーキャッシュフロー(百万円)	2010.9月	1,066

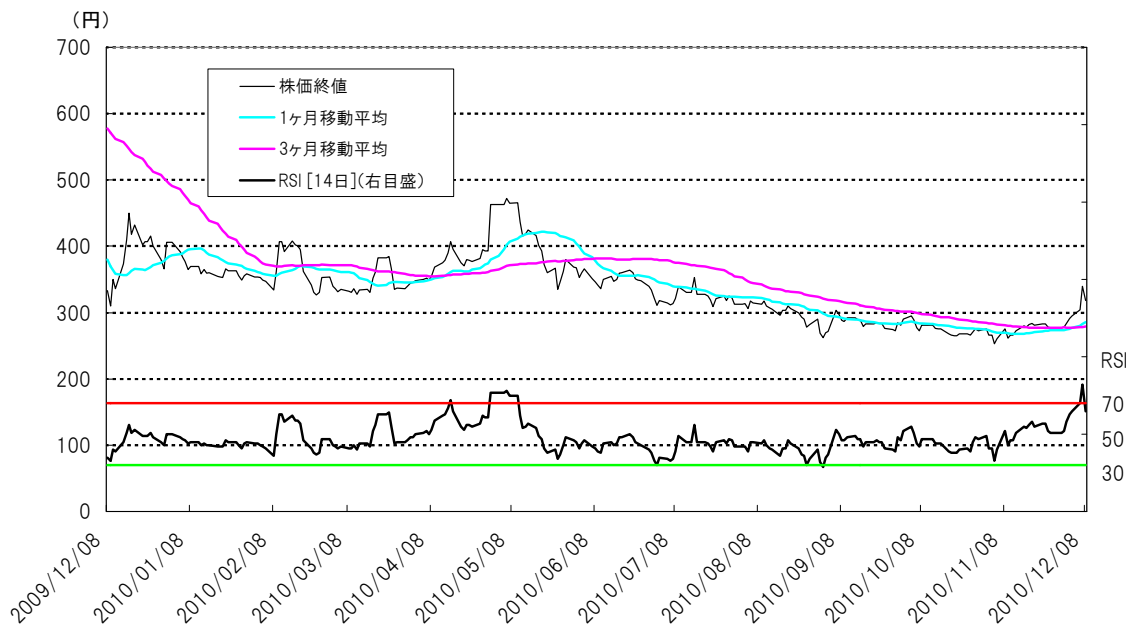
注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均
 ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均
 PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)
 日々平均出来高=過去1年間の平均
 有利子負債比率=有利子負債÷自己資本
 フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2006年12月期	21,197	119	118	97	783.25	300.00
2007年12月期	24,321	1,013	1,004	583	4,917.28	492.00
2008年12月期	24,148	1,113	1,134	641	5,412.29	644.00
2009年12月期	17,964	△ 150	22	△ 215	△ 1,511.00	644.00
2010年12月期3Q累計	20,249	635	823	376	2,593.08	-
予2010年12月期	28,500	1,600	1,800	1,050	72.05	7.21

注1: 2010年12月期予想は、2010年10月28日発表の会社予想

注2: 2010年11月15日付で、普通株式1株を100株に分割: 通期予想の1株益(円)は、当該株式分割調整後のもの

株価チャートとRSI



出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ度」や「売られ過ぎ度」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置しているといわれている
 $RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{(N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均)} \times 100$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。